

みん・みんの会「10周年の集い」 2019年3月10日(日)に開催!

みん・みんの会は10周年を記念する集いを2018年9月30日(日)に行う予定でしたが、台風の影響で延期せざるを得ませんでした。

10周年の集いは2019年3月10日(日)午後1時開場、1時半から「ソーネ・おおぞね」で行います。
添付のチラシを参照して下さい。

3月10日の記念講演は『ソトコト』編集長で、『ぼくらは地方で幸せを見つける』(ポプラ新書)の著者である指出一正さんに、引き続きお願いしました。集いの構成は、第I部が指出一さんの講演、第2部が木曾川上流域の交流連携でつながってきた人びとからのごあいさつ、第3部は下流域・都市部の人びとからのごあいさつ、という内容で考えています。よろしくお祈りします。

書評 月刊誌『ソトコト』3月号～特集「続・関係人口入門」～

複数の地域と結びついて「豊かさ」を生み出していく事例が満載

3月に月刊誌『ソトコト』編集長の指出一さんをお招きすることもあり、3月号の特集の案内をしたいと思います。そもそも『ソトコト』という月刊誌は「みん・みんの会」の活動に関連する記事が掲載されることの多い内容なので以前より注目していました。

3月号では「続・関係人口入門」を半分近いページ数を割いて特集しています。関係人口とは、3月号表紙で案内していますが「観光以上、移住未満」でして、特定の地域に意識的にかかわる人たちのことを指します。特集では13の地域から、それぞれの立場の違う方たちからの視点で紹介されています。

立場は大きく4つに分類しています。

①関係人口を迎え入れる人 ②関係人口に該当するご本人 ③関係人口を生み出そうとする地域の案内施設 ④海外からの観光客を関係人口に昇華させていこうとする取り組み、という内容です。

読んでみて特に面白いと感じたことは、①②に該当する人たちの多くが、居住地を複数持つとい

う生き方の選択をするなかで、複数の地域と結びついてそれぞれの地域で「観光人口から関係人口、時には移住」となっているケースがあることです。そのあたりについて、後半に登場するジャーナリストの佐々木さんが面白い指摘をしています。

「日本人が一地域に定住するようになったのは農耕社会が本格化した江戸時代以後で、それ以前は移動を前提とする社会があった。21世紀に入りインターネットで情報発信・受信が容易になったこともあって、移動生活が中心になる社会が復活するのではないか」

最後に関係人口を積み上げていくための課題などについて編集長自らが読者とのQ&A形式でわかりやすく解説・事例紹介を行い、必ずしも移住にとらわれない地域への関わりを進めようという『ソトコト』の姿勢を提起しています。

人の住み方・働き方・遊び方が多層化することで「都市と田舎」「田舎同士」「地域同士」のつながりも多層化し、お金とは違う意味での「豊かさ」を生み出す可能性があると感じました。

(事務局 鈴木)

10年間を感謝し、11年目へ踏み出す～第9回みん・みんの会総会～

1月14日、「ソーネおおぞね」において、第9回みん・みんの会の総会を開催しました。本来は昨年秋に予定でしたが、「みん・みんの会10周年の集い」が台風の影響で延期した関係で、総会も今回の開催となりました。

はじめに河崎共同代表から昨年度の活動報告、会計報告、木曾川流域水源の基金による活動と会計報告が行われました。続いて、みん・みん楽作隊の大豆作り味噌造りの報告と会計報告が行われ、いずれの議題も承認されました。

総会後の第2部として木祖村観光協会の圃中さん、木曾町・小池糰店の唐沢さん、日進市議の山根さんからこれからの上下流交流・連携の活動の提言として発言していただきました。圃中さんからは、2008年3月に名古屋で「木祖村名古屋出張所」立ち上げた経緯とその後木祖村に戻り上下流交流事業に取り組んできたことが話されました。唐沢さんは、この間の発酵食品や文化についての木曾町の動向やまちづくりについてイベントなどだけに頼らず日常的な活動やつながりが大切だと話されました。

山根さんは中部愛知水道企業団（日進市、長久手市、みよし市、豊明市、東郷町）が取り組んでいる使用する水道料金に「1トン1円」積み立てて、毎年約3,200万円を木曾の上流の間伐などの基金にしている取り組みや木祖村との姉妹提携の意味を地元で若い人たちに広げていくことが大切と話されました。私たちは10年間のご支援に感謝し、11年目に踏み出していきます。（事務局長 近藤進）

名古屋市科学館へ木曾青峰高校生が木製玩具贈呈

2019年2月20日午前11時から名古屋市科学館2階のウッディプレイランドで、長野県木曾青峰高校インテリア科8人の高校生が制作した2つの木製玩具「運んでホールインワンおもちゃ（写真左）」「がったが五郎（右）」の贈呈式が行われました。瀬織館長から感謝状が高校生に渡され、「毎回楽しみにしている。木曾川の上流と下流は深いつながりがある。木曾五木が川によって下流に運び込まれ様々な産業を生み出してきた」などのお話と共にお礼の言葉が述べられました。続いて第2部では、出席した高校生や先生から苦労したことが話されました。斎藤まこと名古屋市議、木曾広域連合地域振興課の大島さんからこの取り組みの経過や意義が語られました。みん・みんの会の河崎からは木曾青峰高校との出会いや、今回が6回目の贈呈で高校生が制作した作品が20を超えたことを報告しました。

今年度も木曾川流域水源の里基金へのご協力ご支援をよろしくお願いします。（かわさき）



2つの木製玩具、もうすぐ完成！＝2019年1月18日、木曾町の木曾青峰高校インテリア科で

水源の里を守ろう 木曾川流域みん・みんの会

連絡先：〒464-0075 名古屋市千種区内山3-7-11 斎藤事務所気付
TEL 052-745-1001 FAX 052-741-2588 mail:suigenosato@gmail.com